

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月12日

事業ID:2023010295

事業名:埼玉県入間市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(2年目)

団体名:NPO法人あそびあーと

代表者名:代表理事 馬路清美

TEL:04-2962-7719

事業完了日:2024年3月31日



■契約時

事業費総額	:	6,560,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	6,560,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	6,370,245 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	245 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	6,370,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	190,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1) 助成契約書記載の事業内容(予定)

1.埼玉県入間市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2023年4月1日～2024年3月31日(週3日、14時から18時まで(開所))
(2)場所:埼玉県入間市の西武明寿会老人憩の家
(3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学生を中心に20名
(4)内容:子ども第三の居場所づくり、子どもとの1対1の関係を重ねながら、子どもたちが創造力と想像力を発揮し、感性を育て、学ぶ意欲向上も支援することで社会的相手を補完する。学校とは違う環境の中で過ごす中で、仲間とのコミュニケーションを豊かに育む。
会場は広場も併設されているので、体を使っているのびのび遊ぶことも大事にする。季節毎には、フラット体験や伝統芸能体験、地域に住むプロのアーティストによるアート体験や、地域の方々と交流する季節の行事などを通して、子どもにも多様な経験を提供する。季節の行事では、竹を切り出し、流しソーメンをしたり、お餅つきなど、核家族ではできないタイオナミックな体験をする。
中学生は、自分たちで体験したい企画を考え、実行していく場面も作る。意見を出し合い、違いを認め合う力を養うことで、他者への共感力、コミュニケーション力を養うものとする。特に大学生のボランティアに入ってもらい、近い将来についてイメージも膨らませる環境としていく。

(2) 事業完了時の事業内容(実績)

1.埼玉県入間市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2023年4月1日～2024年3月31日(週3日、14時から18時まで(開所))
(2)場所:埼玉県入間市の西武明寿会老人憩の家
(3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学生を中心に18名
(4)内容:子ども第三の居場所づくり、子どもとの1対1の関係を重ねながら、子どもたちが創造力と想像力を発揮し、感性を育て、学ぶ意欲向上も支援することで社会的相手を補完した。学校とは違う環境の中で過ごす中で、仲間とのコミュニケーションを豊かに育むことができた。
会場は広場も併設されているので、体を使っているのびのび遊ぶことができた。季節毎には、フラット体験や伝統芸能体験、地域に住むプロのアーティストによるアート体験や、地域の方々と交流する季節の行事などを通して、子どもにも多様な経験を提供した。季節の行事では、地域の夏まつりに参加した。
中学生は、自分たちで体験したい企画を考え、実行していく場面も作るまでには至らなかった。意見を出し合い、違いを認め合う力を養うことで、他者への共感力、コミュニケーション力を養うものとする。特に大学生のボランティアに入ってもらい、近い将来についてのイメージも膨らませる環境ができた。

(3) 成功したこととその要因

学校とは違う環境の中で過ごす中で、仲間とのコミュニケーションを豊かに育むことができたのは、安心できる場所ということが定着し、子ども同士が誘い合って参加し、大学生のスタッフもいたことで異年齢で過ごす関係ができたことがコミュニケーションを豊かした要因である

(4) 失敗したこととその要因

中学生対象の体験の場を求めるニーズをつかみきれなかったため、定期的な利用に至らなかったため、企画でまかかった

(5) 事業内容詳細

*クラフト体験:季節ごとに縁側からの入り口に飾るものを作り、部屋を明るく飾ることができた。クラフトテープを使った籠や、キーホルダーをつくり、できたものは、敬老の日のプレゼントとして贈ることができた。

*伝統芸能体験:4月8日(土)ヨヨーのチャレンジピオンのパフォーマンスを観てからヨヨーの体験をする機会ができた。子ども31名、大人10名

11月4日(土)「紙芝居」と駄菓子屋、ポン菓子などの体験、と竹馬、コマ回しなどのあそびの体験をした。子ども22名、大人6名

*アート体験:2月10日(土)「迷路絵本作家香川元太郎さん、香川志織さんと遊ぶ会」で迷路で遊んだ。プロジェクトターで映し出した迷路と手元に印刷した迷路の中のクイズを出して、子どもたちが答えるという遊びをした。子ども25名、大人8名

3月23日(土)「ここにクラウンジョー」で講師の香山ひまわりさんとバリエーションアートの体験をした。子ども23名、大人15名

*交流体験:居場所が、7月に開催の夏まつりの会場になったので、輪投げ屋さんとヨヨー釣り ترامネ、くじ引き屋さんとの4つの店を担当に分けて、看板、店番などをして地域の方との交流ができた。

■事業内容2

(1) 契約時の事業内容

--

(2) 事業内容の実施(完了)状況

--



(3) 成功したこととその要因

--

(4) 失敗したこととその要因

--

(5) 事業内容詳細

--

■事業内容3

(1) 契約時の事業内容

--

(2) 事業内容の実施(完了)状況

--



(3) 成功したこととその要因

--

(4) 失敗したこととその要因

--

(5) 事業内容詳細

--

■事業内容4

(1) 契約時の事業内容

(2) 事業内容の実施(完了)状況



(3) 成功したこととその要因

(4) 失敗したこととその要因

(5) 事業内容詳細

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1) 助成契約書記載の目標

■コミュニティモデルの運営事業

- ・2024年3月31日までこの一日平均利用児童数を20名にする
- ・ポランテア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に4回実施する

(2) 目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	334	文字数チェック	OK
<p>①一日平均利用児童数20名にするについては、利用にばらつきがあった。10月のはじめには1週間の学校閉鎖などもあり、体調管理の影響もでたのかもしれない。そして、子どもたちの送迎をする大人側の事情もあり、参加できなかつたという声もあった。平均値をだすと18名という結果だった。</p> <p>②会場の鍵のスペアを作ってもらい曜日ごとに鍵を開けるよう地域のひとと協力できた。子どもたちが積極的に居場所の話を教員にしているので、4年生の担任2名が見学に来て、現場を知ってもらえた。夏まっりの参加も声をかけてもらえた交流の機会となった。</p> <p>③4月8日「ヨーヨー世界チャンピオン」11月4日「紙芝居屋benben」2月10日「絵本作家と遊ぶ会」3月23日「こここクラウンショー」の4回実施できた。</p>			



3. 事業実施によって得られた成果

児童数が減っている現状、コロナ禍子供会もなくなってしまい、自治会の中で子どもの現状を共有できなくなってきた。地域のお祭り、体育祭が復活しても子どもたちとのつながりがなくて困っていた自治会が相談に来て、子どもたちとのパイプ役として当てにされるほど、子どもの居場所が認識されている。ふだん小学生と話すことなどない世代にとって、「みんながみんなの子どもを育てる社会」ということが実践できる場所の一つと評価されている。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

小学生の登録は多くても、実際参加するのは、居場所から5分くらいの場所に住んでいる子、もしくは、親が送って来れる子という条件があるようだ。下校の際、ランドセルのまま来所できる方法が可能かどうか、学校と話し合いをしていきたい。
特別支援クラスに通う子は、放課後デイサービスに通うことが多い。教育現場では分ける傾向が強いので、地域の居場所は、分けられない居場所になるように一人一人の特性を理解していく必要がある。
中学生の利用が少ないが、中学生が困難になっていないかという現状分析が必要。第三の居場所が必要だという認識が中学生の間にも広がるようまずは、自習室のような仕組みを作っていく。

5. 事業成果物

(1) 助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2) 事業完了時の成果物名称

チラシ各1000枚 5回発行
ポスター 20枚
冊子 1200部 発行
完了報告書



(3) 未作成となった要因

SNSで広報したため、ニューズレターの制作はしなかった

(4) 成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

